

ガーデンを考える会 東日本大震災被災地小学校に 5回目の支援を実施

12校に花苗や資材など提供 児童らと一緒に植え込みも



一株ずつ心を込めて…。被災地児童や仮設住宅の皆さんと植え込みを行いました



みんなで力を合わせて運びます



ゴーヤを使って校舎に緑のカーテンを作りました

NPO法人ガーデンを考える会では、東日本大震災被災地域の小学校に対する支援活動を継続的に行っており、6月の6～7日に岩手県釜石市の小学校5校および宮城県気仙沼市の小学校12校に、5回目の支援活動を行いました。

今回は気仙沼市の小学校8校を訪問し、その内の4校は授業活動として、会員有志11名とボランティア4名の合計15名とともに、花苗や野菜苗等の植え込みを行いました。そのほかの気仙沼市と釜石市の小学校には、花苗や植え込み資材の提供をいたしました。

内容としては、秋まきを彩る花苗として約2700ポット、緑のカーテン用のゴーヤや、トマトを主とした夏野菜の苗を約700ポット、それを植え込むコンテナや培用土および肥料等、またそれらを購入する資金を、会および会員メンバーから提供を受け実施しました。

6月7日の当日は2班に分かれ、小原木小学校・白山小学校・鹿折小学校・九条小学校・落合小学校・新城小学校・松岩小学校・面瀬小学校を訪れ、1年生から6年生までの多くの児童と一緒に植え込み活動を行いました。

その内の小原木小学校では、隣接の仮設住宅の皆さんも交え、校庭の花壇の植え込みや野菜の植え込みを行いました。

また、鹿折小学校では、昨春に引き続きゴーヤを用いて、約10m幅の緑のカーテンを児童とともに作りました。作業を行っている最中には、昨年植え込み活動をした児童達から声を掛けられ、「去年は1000個以上採れたよ」とか、「お家で料理して食べたよ、でも一緒に入っていたウインナーの方がおいしかったよ」とか、皆がこの植え込み活動をよく覚えてくれて、継続的に活動する重要さを改めて感じました。

それ以外の小学校では、事前に送ることができなかった物資をお届けし、先生達から、今後の支援活動への要望事項等をお聞きしました。

震災から2年以上たち、ともすればあの大災害が人々の心から風化されていくような感もありますが、現地に行ってみると瓦礫は片付いているものの、改めて被害の甚大さを実感する風景が延々と続いています。このような状況の中で、我々園芸関係者ができることは限られていますが、花や緑をもつてできることは少なからずあると思っています。

ガーデンを考える会では継続的な支援活動として、今秋の10月中ごろにも6回目の支援活動を予定しています。ぜひ多くの皆さまが、これらの活動に賛同し、参加していただけるように願っています。

(NPO法人ガーデンを考える会会長／水野 隆)

今回特別に支援活動に 協賛いただいた会員の皆さま

アップルウエア(株)／キムラグリーン(株)
／(株)シモジマ／(有)角田ナーセリー／豊明
花き(株)／中島商事(株)／日本ポリ鉢販売(株)
／(株)ハイポネックスジャパン／(株)ハクサン
／ハクサンインターナショナル(株)／(株)
花ごころ／北越農事(株)／(株)牧野／(株)ユニ
ソン／(有)緑花技研／(株)レイ・ハウス